

## Ⅱ. セミナー等開催報告

### Ⅱ-1. 「地域貢献セミナー」を終えて

地域貢献セミナーは、従来行なわれていた「高度技術研修」を、対象者を、学部学生・市民・提携大学等に広げる方向で発展させたものです。本学に培われた経営・商学の専門的知見を地域社会に還元することを目的としています。第1回目である今年度は、小樽市稲穂の日専連ビルを会場として、平成18年2月18日(土)に、本学 地域貢献推進委員会との共催により開催されました。当日は、「大学の地域貢献活動—大学も地元を元気にする」というタイトルのもとで、本学の地域貢献・社会貢献活動について3本の講演を行ないました。各講演のあとには、セミナー参加者からの質疑応答が行なわれ、本学に対する期待の大きさが示されました。

なお、本セミナーの開催にあたりましては、小樽市役所、小樽商工会議所、北海道中小企業同友会(しりべし・小樽支部)のご後援を頂きました。

#### 《当日プログラム》

##### 講演1 「これからの地域経営戦略論」

下川哲央 (CBC センター長・大学院アントレプレナーシップ専攻 教授)

##### 講演2 「大学の地域貢献活動」

奥田和重 (CBC 情報資料部主任・大学院アントレプレナーシップ専攻 教授)

##### 講演3 「小樽商工会議所 JAPAN プラン度育成支援事業

—OTARU—ガラス工芸品の世界ブランド化プロジェクト—

海老名 誠 (CBC 副センター長・教授)

#### 《概要》

第1講演においては、国際経済のボーダーレス化と、北海道と道内企業を取り巻く厳しい経済環境が、様々な数値をもとに概観されました。そのような厳しい環境の下で地域企業が競争に打ち勝つための概念として、「位置取り戦略」重要性について講演がなされました。また、「位置取り戦略」構築を支えるその企業固有の競争力と、顧客価値の創出が鍵となることが提言されました。そして、それらの課題に関連して、高度なビジネス上の困難を解決する上での本学の貢献(専門職大学院での人材育成、CBC によるビジネス相談・共同研究など)についても説明がされました。



下川センター長の講演

続く第2講演では、本学が行なってきた地域社会活性化の成果について説明がなされました。また、CBC活動を通じて明らかになった点を基に、地域と大学との関係について講演が行なわれました。すなわち、「社会や地域が大学に対して持っているイメージ」には誤解や勘違いがあることです。このことと、大学設置時に意図された「大学の役割」の間にはギャップがあります。大学の最大の社会貢献・地域貢献機能とは、「課題探求型能力」を持った人材を持続的に社会へ輩出することです。その実現には、大学だけではなく、地域住民が主体的に活性化に取り組む必要があることが講演されました。



セミナー会場の様子

最後の第3講演では、本学が中心となっ  
て行なわれている地域活性化プロジェクトの事例  
について、講演がされました。小樽には多くの  
ガラス工房があり、「小樽＝ガラス」というイメ  
ージが定着しつつあります。これを全国ブラン  
ド、世界ブランドとして育成することを通じて、  
小樽経済の活性化に繋げることが事業の目的  
です。国内外での市場調査・アンケートの分析・  
考察の結果得られた知見を説明するとともに、

中小企業庁からの受託事業である「OTARUーガラス工芸品の世界ブランド化プロジェクト」における本学の役割についても説明がなされました。

(文責：前田東岐)

## Ⅱ-2. 第1回「マッチング・フォーラム」を終えて

昨年10月1日、本学と札幌医科大学との間で締結されました「大学間の文理融合による連携協力に関する協定書<sup>1</sup>」が締結されました。協定の締結以来、札幌医科大学との間で行なわれました協議・情報交換会を通じ、両校合同で「マッチング・フォーラム」を実施してゆくこととなりました。「マッチング・フォーラム」は、協定の方針に基づき、「理工学系の優れた研究シーズを有する他大学との大学間連携を通じて、本学が有する経営系の資源を社会・地域へ還元すること」を目指しております。そして、2006年3月28日、本学札幌サテライトにて、第1回フォーラムが開催されました。当日は、札幌医科大学・今井浩三学長、本学・秋山義昭学長の出席があり、約60名の来場者に対して講演・発表が行なわれました。

第1回目である今回は、実質的な準備期間の不足による課題も生じました。今回の経験を踏まえ、2006年度以降は、年2回程度の実施を計画しております。

今後は、さらなる連携を深めることで、相互にシナジーを享受することで更なる発展が期待されます。

### 《当日プログラム》

#### 講演1「医大シーズの現状と今後」

石埜正穂（札幌医科大学 知的財産管理室長，医学部衛生学 助教授）

#### 講演2「商大マネジメント研究の現状と医療・健康ビジネス」

松尾 睦（本学大学院アントレプレナーシップ専攻 助教授）

#### テーマ1「早期の病気発見を可能にする血液診断システム」

小海康夫（札幌医科大学 医学部 教育研究機器センター分子機能解析部門教授）

#### テーマ2「一人で出来る頭の元気度チェック」

村上新治（札幌医科大学 保健医療学部 作業療法学科 教授）

### 《概要》

当日は、札幌医科大学の持つシーズの状況、本学のマネジメント研究の現状について、それぞれの講演があり、その後 札幌医大から2つのシーズをテーマとして発表がなされました。そして、本学の4人の教員が、2つのテーマに対する事業化の可能性について、各自の専門分野の視点からコメントを行なう形で、フォーラムは進行しました。

---

<sup>1</sup>本協定は、中期計画における「地域の公私立大学等との連携・支援に関する具体的方策」具体化の一環として、2005年10月1日に、本学札幌サテライトにおいて、札幌医科大学および北海道東海大学との間で締結されました。それぞれの大学が持っている知見や資源、持っていない知見や資源などを互いに補い合うことにより、社会と大学の活性化に役立つ「人材育成や知の活用体制」を結実させることが目的です。連携協力により、それぞれの大学の役割・機能がシナジー効果を持つ枠組みを形成することができますので、「人材育成や知の活用体制」の具体化が加速できるものと期待されます。

テーマに対するコメントの担当は、本学のヘルスケアマネジメント研究会にも所属する以下の教員が行ないました。

李 済民 (本学大学院アントレプレナーシップ専攻 教授)

伊藤 一 (本学 商学部商学科 教授)

中川喜直 (本学 一般教育系 教授)

前田東岐 (本学 商学部商学科 助教授)。

(文責：前田東岐)



挨拶する今井浩三札幌医科大学学長



挨拶する秋山義昭小樽商科大学学長



シーズの発表をする札幌医大スタッフ



事業化について意見交換する商大スタッフ